

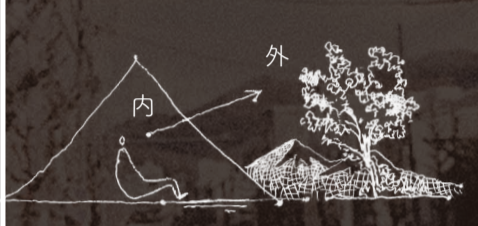


都市をキャンプする

キャンプをしていると雲の動きや雨の音、木漏れ日などといった自分の意思とは無関係に変化していく自然の移り変わりを肌で感じられ、何時間居ても飽きない。

では舞台を**自然**から**都市**へと変えてみよう。“外”の動きすなわち行き交う歩行者や車、街路樹の木漏れ日や、隣人の暮らしなど、絶え間なく変化する“外”を取り込むことで“飽きない住まい”の提案をする。

キャンプ (内) ↔ 自然 (外)



キャンプを何時間していても飽きず来ないのは、雲の動きや雨の音、木漏れ日などといった自分の意思とは無関係に変化していく自然の移り変わりを肌で感じるからである。

住宅 (内) ↔ 都市 (外)



従来の都市住宅では意識は外へと向かわない。都市の喧騒は居住空間においてマイナス要素として捉えられ、通りに対して塀や厚い壁を設けてしまうからだ。

今回提案する住宅は、電気を使わないことによって自然採光や通風が必要不可欠になる。電気設備によって住宅ひとつで完結してしまう現代住宅と違い、積極的に外の要素を取り入れることによって初めて成り立つキャンプのような暮らしを提案していきたい。

CONTEXT

敷地は4車線の大通り・白川通と白川沿いの小径に挟まれた場所である。それぞれの異なる性格の道路に接しているという特性を活かした計画をする。

白川通沿いは都市を見下ろせるように出窓を設け、白川沿いの小径に対しては開口の高さを変化させることで、道、川さらに奥の木々へと視線を誘導する。隣家とは開口高さをずらすことで、互いの暮らしを感じつつ干渉しあわないよう計画する。

Site plan S=1:2000

DESIGN

First floor S=1:200

Second floor S=1:200

Third floor S=1:200

庭ではストーブに使う薪を割ったり野菜を育てるといったアクティビティが見られる。電気を使わないコンポストイレの排泄物は畑の堆肥となって活用され、また水回りは白川から引いてきた水を使用する。

テラスは雨の日にはしっかりと水気を吸い取り、雨の匂いを家の中へと運び込む。

PROCESS

都市の周辺状況に合わせて空間を多様化し、気分に合わせて自分の居心地の良い場所を都市をキャンプするのようにつけられる住宅とする。

都市の状況に合わせて暮らしの場を拡張していく住まいは、まさに都市をキャンプしていると言えるのではないか。

電気がない暮らしでも風が通る快適な空間となるような内部動線を計画する。

拡張域①: 開口
開口は周辺環境を積極的に取り入れ住まいを拡張する。

拡張域②: 鉄骨単管
鉄骨単管は晴れた日はタープなどを張り、住まいをキャンプのように最大限まで拡張する。

白川通を見下ろす開口は、都市を積極的に住まいに引きこみつつ、道路との高低差が緩衝の役割を果たす。

階段を登っていく視線高さの変化に合わせて設けた開口は、手前の小径、奥の白川、さらにその奥に生い茂る木々の自然へと意識を導いていく。

隣人の暮らしを庭越しに感じつつ、開口位置をずらすことで、程よい距離感を保つ。

白川を見下ろす。

白川通に対する開口の下に設けたベンチによる奥行きが都市との緩衝材としての役割を果たす。

Section S=1:50

Daily Routine

日差しが部屋に差し込み、1日が始まる。都市の騒がしさを覚ます。

◀ AM8:00
朝食を土間で。冬には薪ストーブに薪をくべる。

◀ AM10:00
白川から引いた水で洗った洗濯物を干す。

◀ PM12:00
晴れた日の午後は単管にタープを張って日陰でまったり。

◀ PM15:00
子供部屋では外の様子を感じながら出窓に腰掛けたりハンモックに揺れながら昼寝をしたり。

◀ PM17:00
書斎で都市を見下ろしながら読書をする。